

# 週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

## 2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、  
御言葉を聞いて悟る人」  
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



### どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半  
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時～10 時  
祈 祷 会 各水曜日

○昼の聖書研究祈禱会  
(第3・午後2時)

●夕の祈禱会  
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

協力牧師 堂 本 陽 子

協力牧師 井 東 昭

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

# 3197 2026 年 2 月 15 日

## 礼 拝 式 順 序

(降誕節第8主日)

司式者 井 殿 準

奏楽者 菊 池 洋 子

|                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 前 奏                               | 奏 楽 者 |
| 招 詞 詩編 100 編                      | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 225 「すべてのものらよ」              | 一 同   |
| 聖 書 マルコ 4 : 35 ~ 41 (新 P. 68)     | 司 式 者 |
| 使徒信条 (93-4-A)                     | 一 同   |
| 祈 祷                               | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 56 「主よ、いのちのパンをさき」           | 一 同   |
| 説 教 「任されて進む」                      | 司 式 者 |
| 祈 祷                               | 〃     |
| 讃 美 歌 462 「はてしも知れぬ」               | 一 同   |
| 献 金                               | 〃     |
| 主の祈り (93-5-A)                     | 〃     |
| 頌 栄 28 「み栄えあれや」                   | 〃     |
| 祝 祷                               | 司 式 者 |
| 答 唱 40-6 「アーメン」                   | 一 同   |
| 〜「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう〜 |       |
| 報 告                               | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 92 「主よ、わたしたちの主よ」            | 一 同   |

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「あなたの罪は赦される」

(マルコ 2 : 1 ~ 12)

主イエスは、この方のもとに連れて行きさえすれば癒やしていただけると信じて、「中風の人」(聖書協会共同訳聖書では「体の麻痺した人」)を連れて来た4人の信仰を見て、体の麻痺した人に対して、癒やしの奇跡を行うのでなく、「あなたの罪は赦される」と罪の赦しを宣言なさった。では、主イエスは体の麻痺した人の内にどんな罪を見ていたのだろうか？

「あなたの罪は赦される」とある部分は、聖書協会共同訳聖書でも口語訳聖書でも「あなたの罪は赦された」と記されている。ここでは「不定過去現在」という用法が使われていて、「あなたの罪は今この時赦される」という意味合いとされる。この言葉が語られた瞬間には過去となっているが故に、「あなたの罪は赦された」とも訳し得るが、だとすると、主イエスが「あなたの罪は赦される」とおっしゃった時の罪の赦しとは、後に主イエスが十字架の上で自らの命をささげて成し遂げてくださった罪の赦しと言うよりも、別の意味と考える方が自然なのではないだろうか。

当時のユダヤでは、病気や体のどこかが不自由であることは、その人が何らかの罪を犯し、その結果から生じたものだと考えられた。ファリサイ派の人々や律法学者たちはそのように教えて、病者や障がいを持つ人々を罪人と断定した。また、罪人と関わることを好ましくないことと教えたが故に、「罪人」とされた人々は孤立しがちであった。

主イエスは、体の麻痺した人と、非常識と知りながら屋根を壊してまで友を助けようとする4人の間の美しい人間関係をご覧になって喜び、「あなたの罪はもう赦されている(律法主義者によって壊された関係は回復されている)」とおっしゃったのではないだろうか。そして、主は、「あの4人がしたように、破壊された人間関係を回復するように努め、罪赦された関係(美しい人間関係)を周囲に築いて行きなさい」と我々に告げているのではないだろうか。

我々は、今日の聖書の御言葉をそのように受けとめて、これから出会う一人一人と共に、美しい人間関係を築いて行くことに努めて歩み行こう。